

 NCJTA NEWSLETTER
北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.net>

第 39 号・2013 年 10 月発行

北加日本語教師会 2013 年の秋の例会
Saturday, October 26, 2013
Chabot College, Hayward

会長挨拶



会長挨拶
高松信子

この秋から北加日本語教師会 (Northern California Japanese Teachers' Association: NCJTA) の会長を務めさせて頂くことになりました高松信子でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。北加日本語教師会にはグラント文子前会長と同様、長年会員として参加させて頂いております。その頃からの先生方も近年益々ご活躍で大変心強く感じております。私事になりますが、ごく軽い気持ちで渡米いたしまして 36 年の月日が流れてしまいました。ハワイ入国時には既に永住権があったため、別室にて入国手続きをいたしましたが、当時アメリカではベトナム難民の受け入れ中で、大部屋にベトナム人家族がぎっしりと待たされていました。経済大国を目指していた日本では遭遇できなかった光景で、予期に反するアメリカの一面を見た気持ちを今でもはっきりと覚えております。これが「人種のるつぼ」真のアメリカ社会なのだと理解するのに何年もかかったような気が致します。今年で 33 年間、このサンフランシスコで教職に携わり、時代の変遷と共に日本語教育の移り変わりを経験してまいりました。その間、小学生から大学生まで様々な環境におけるいろいろなレベルのクラスを担当してまいりました。



北加日本語教師会、春の例会時には「ポップカルチャーと日本語教育」というテーマで皆様方と話し合いがなされましたが、偶然にも私は今学期サンフランシスコ大学でポップカルチャーを教えております。異文化間における言語学習については、長年注目され研究されている分野ですが、日本文化といえば、伝統文化の範囲に留まりがちです。それを踏まえ 70 年代頃から表面化してきたポストモダン文化、なかなか奥が深く興味深い現象です。前例会で話題になりましたが、このポップカルチャーに触れ、そのために日本語に興味を持つ人々が増えているのは確かです。私のクラスも現在 40 名の学生が受講しています。小、中、高そして大学生を含む大人にも、漫画、アニメ、ゲームそしてそれらに付随する数々の商品が近年あちこちで目につきます。このポップカルチャー（消費文化）は今や日本政府の支援の下に着実に世界浸透に向かって成功しつつあるように思われます。学術的にはポスト構造主義、記号学の見地からもオタク達の行動がいろいろ分析、研究されていますが将来どのように発展していくのか興味深い分野でもあります。また日本語教育において、いかにこの文化や日本社会を紹介していくのか、昨今のテクノロジー、マスメディアの発達に伴い、日本を知ってもらうための効果的な

NCJTA 2013
秋の例会



新しいアイデアがどんどん考えられているように思われます。

北加日本語教師会におきましては、今暫く、「文化と言語」に関連させて皆様方と研究を続けてまいりたいと思っております。それと共にここ数年「日本語教育における縦のつながりの強化」を目指してまいりましたが、今後の日本語教育発展のためにも大変重要な課題だと思われれます。これまでの役員の皆様方によって築いて頂きました絆を大切にして、これからもこの路線に沿って役員一同努力していきたいと考えております。春には CAJLT (California Association of Japanese Language Teachers) の皆様方との合同例会等も計画しておりますので、会員の方々のご支援を頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

さてこの、10月26日(土)には Foreign Language Association of Northern California (FLANC) が Hayward の Chabot College にて開催されます。日本語関係では文化に関連した三つの発表が予定されています。NCJTA 秋の例会は、FLANC の最後のセッションとして 3:00p.m. から 3:45p.m. まで開催予定です。今回は UC Berkeley の柴原千佳先生に「映画を通して日本を考える」というテーマで発表をしていただきます。柴原千佳先生は FLANC のセッションでも同校の Mark Kaiser 先生と共同発表をなさいます。また、高坂聖子先生から yahoo group mail により会員の皆様に FLANC のグループ登録割引のご案内が届いていることと思います。NCJTA の活性化と発展のため、皆様お誘いにて是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。それでは当日皆様方にお会いできるのを楽しみにしております。

北加日本語教師会秋の例会
NCJTA Fall Conference

北加日本語教師会秋季例会のご案内

- 日時：10月26日(土曜日) 午後3時から3時45分まで
- 会場：Chabot College, Hayward (教室番号は当日掲示致します。)
- 発表：「映画を通して日本を考える」

カリフォルニア大学バークレー校 柴原千佳先生

柴原先生は今回のFLANCの会合でも発表なさいます。NCJTAの例会ではそのFLANCの発表に関連づけてお話を頂くことになっています。

尚、秋季例会はFLANC と合同で開催しますので、FLANCのセッションの中から下記に日本語関係のセッションのご案内もさせていただきます。「お知らせ」欄の「FLANC」も併せてご覧ください。

- **First Interest Sessions: 9:00-9:45, Building 800**
“Developing Student Competencies through Film Clips “
(Mark Kaiser and Chika Shibahara, UC Berkeley)
- **Second Interest Sessions: 10:30-11:45, Building 800**
“Building A Culture Based Curricular Unit “
(Kaori McDaniel and Ann Jordan, Los Gatos High School)
- **Third Interest Sessions: 1:00-1:45, Building 800**
“Learning Design for the 21st century classroom”
(Tomokazu Morikawa, George Washington High School)
- **Fourth Interest Sessions: 2:00-2:45, Building 800**
“Curriculum design that promotes thinking skills through learning cultural topics”
(Kumi Kobayashi, Lynbrook High School)

FLANC/NCJTA 例会登録につきましては下記の「NCJTA 会計から」の欄をご参照ください。

NCJTA 会計から



NCJTA 会計から

NCJTA の会費は一般 15 ドル、学生 5 ドルです。2013 年度分の会費（2013 年 1 月から 12 月まで有効）を未納の方は本ニューズレターに添付の年会費納入用紙とともにご郵送くださるか、秋の例会でお支払いください。昨年までの会費が未納の方も、今年のみ会費で結構です。

秋の例会は例年通り、FLANC の一部として開催されます。先日グループメールにて皆様にご案内申し上げましたが、事前にグループ登録していただきますと FLANC にも終日参加できます。通常の FLANC の登録料の半額になっておりますので、是非この機会をお見逃しのないよう、お誘い合わせの上、ご参加ください。添付のグループ登録申し込み書をご記入の上、チェックを添えて、下記までお送りください。

事前登録料： 25 ドル（終日） 15 ドル（半日）
チェック支払先： NCJTA
チェック送付先： Seiko Kosaka
c/o Nobuko Takamatsu
City College of San Francisco
50 Phelan Avenue A108
San Francisco, CA 94112
事前登録締め切り： 10 月 11 日（金）（必着）

（文責：高坂聖子）

NCJTA 2013 秋の役員会報告



2013 年 秋の役員会報告

日時：2013 年 8 月 25 日（日曜日）午後 12 時～3 時

場所：Graduate Reading Room, San Francisco State University

出席者：高松、グラント、高坂、須田、森岡、田中、森川、真木、猪俣、南
（役員名簿順）、伊藤（記）

1. 引き継ぎの挨拶

2. FLANC Fall Conference

FLANC Fall Conference は Chabot College で 10/25（金）と 10/26（土）に行われる。日本語関係は三つのセッションがある。

3. NCJTA 秋の例会について

会場：Chabot College

日時：10 月 26 日（土）午後 3 時から午後 3 時 45 分まで

UC Berkeley の柴原千佳先生による「映画を通して日本を考える―上級クラスでの試み」と題する発表を予定している。

4. 日本語能力試験について

今年から国際交流基金ではなく、日米日本語教育協会（AATJ）が運営して行うことになった。12/1（日）に San Francisco State University で行われる予定なので、試験監督の協力をお願いしたい。

5. Ocha Zanmai Conference

第二回「お茶三昧」：2013 年茶の湯と茶文化に関するサンフランシスコ国際会議が San Francisco State University で 11/15（金）と 11/16（土）に開催される。NCJTA も協賛団体として、\$100 を寄付する。

NCJTA 春の例会報告



お知らせ



6. 池坊からのお願い
池坊がお茶、お花のデモンストレーションを無料です。
(連絡先)

Nobu Kurashige
Managing Director, Ikenobo Ikebana Society of America
Japan Center – Kinokuniya Bldg.
1581 Webster St., Suite 150
San Francisco, CA 94115
sf@ikenoboamerica.com
nobu.k@ikenoboamerica.com
Office: (415) 567-1011 Cell: (415) 278-1357 Fax: (415) 567-3728

7. 秋のニュースレターについて

(文責：伊藤潤子)

2013 年 NCJTA 春の例会報告

NCJTA 春の例会は 4 月 28 日午前 10 時より午後 2 時半までサンフランシスコ州立大学で「ポップカルチャーと日本語教育」をテーマに開催されました。午前中は、日本のポップカルチャーの研究を専門に日本語教育にも携わっていらっしゃるアリゾナ州立大学の Bradley Wilson 先生をお招きして、「日本のポップカルチャーを日本語教育にどう生かすか」をテーマに講演していただきました。ポップカルチャーとは何なのか、ポップカルチャーの起源、歴史等のご説明の後、実際にどのようにしてポップカルチャーを日本語の授業に取り入れているかを紹介して下さいました。シャドーイング、Voicethread や Photopeach を使ったアクティビティー、Twitter による既習文法の復習、Storify を使ったプロジェクト、Google Art や Tweet of the Week/Day を使ったウォームアップなど、ポップカルチャーを積極的に日本語の授業に取り入れる具体的方法を教えていただきました。

午後は NEW PEOPLE の吉田猛氏が「日本の映画を利用した教材紹介」と題して、映画を楽しみながら日本語を学べる教材「Happy Family Plan」を紹介して下さいました。「Happy Family Plan」は、国際交流基金シドニー日本文化センター「J シネマプロジェクト」により開発された日本語 DVD 教材です。90 年代の日本を描いた映画を使ったもので、大変興味深い教材でした。その後、ヘンリー・ガン高校の正田由紀江先生が「アニメと日本語学習」と題して、アニメのシーンを見せて自分でストーリーを作らせたり、マンガを完成させたりして、生徒のやる気と想像力を引き出す楽しいアクティビティーを紹介して下さいました。最後に、参加者によるレベル別教材作りの話し合いと、アイデアのシェアリングが行われました。

(文責：伊藤潤子)

行事のお知らせ

Foreign Language Association of Northern California (FLANC)

- Foreign Language Association of Northern California (FLANC) <http://fla-nc.org/wp/>
 - 日時：10 月 26 日 (土)
 - 場所：Chabot College, Hayward, CA, Buildings 700 and 800
 - Registration (Bldg. 700): 8:30 a.m. – 1:00 p.m.
 - 1st Interest Session: 9:00 a.m. – 9:45 a.m.
 - Opening Remarks: 9:55 a.m. – 10:15 a.m.
 - 2nd Interest Session: 10:30 a.m. – 11:15 a.m.
 - Lunch (pre-registered only): 11:45 a.m. – 12:45 p.m.
 - 3rd Interest Session: 1:00 p.m. – 1:45 p.m.
 - 4th Interest Session: 2:00 p.m. – 2:45 p.m.
 - NCJTA Meeting: 3:00 p.m. – 3:45 p.m.

- NCJTA 会員の皆様は、NCJTA のほうに前もって\$25 お支払いの上（FLANC 会員\$50、非会員\$70 です）、事前登録していただきますと、FLANC にも終日参加できます（午後からの半日参加で、NCJTA 秋の例会に参加される場合は\$15 です）。本 Newsletter に申込書が添付してありますので、ご記入の上、\$25（終日参加）もしくは\$15（半日参加）を添えて会計の高坂聖子先生までお送りください（10月11日必着）。小切手の支払先名は「FLANC」ではなく、「NCJTA」ですのでお間違いのないようお願いします。

- 登録料：\$25（終日参加）／\$15（昼食後半日参加）
- 小切手支払先名：NCJTA
- 小切手の送付先：Seiko Kosaka

% Ms. Nobuko Takamatsu
City College of San Francisco
50 Phelan Avenue A108
San Francisco, CA 94112

- NCJTA 秋の例会は、従来通り午後 3 時から FLANC の午後のセッションの 1 つとして開催予定です。UC Berkeley の柴原千佳先生のご講演がありますので、ご期待ください。また、ネットワーキングの場としてご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、こちらにもどうかふるってご出席ください。（文責：南雅彦）

2013 年 11 月 16 日開催

第 2 回「お茶三昧」茶の湯と茶文化に関するサンフランシスコ国際会議



去年に続き、今年も「お茶三昧」会議が一般公開されます。本年度は元内閣総理大臣細川護熙様と在サンフランシスコ日本国総領事館の後援、国際交流基金 LA、NCJTA、FLANC、サンフランシスコ大学日本語科などの協賛をいただいております。

日本のトップクラスの専門家による特別講演（大手前大学 岡佳子教授「京焼陶工仁清と茶の湯」東京学芸大学 高橋忠彦教授「唐と宋の茶文化」）のほか、スミソニアン所蔵名物茶釜の紹介、パークレー禅センターによる禅院の食事作法のデモンストレーション（応量器 "just Enough"）など、日本文化と日本語に感心のある方々みなさまにお楽しみいただけるプログラムになっています。

講話、研究発表はすべて日英の二カ国語で行われ、各講師とも一般のお客様のために基本事項を最初に丁寧に説明し、パワーポイントで写真、地図、表などを駆使してわかりやすくご説明しますので、特殊な知識は全く要りません。どなたにでもお楽しみいただけます。

協賛いただいている NCJTA の先生方、学生のみなさん、どうぞふるってご参加ください。10 月 18 日締切までにお申し込みいただくと、早期割引にて一般 25 ドル、学生 10 ドルでご参加いただけます。

- 時/場所：11 月 16 日（土曜日）サンフランシスコ州立大学
- 会議：午前 9 時～午後 5 時 45 分 Humanities Auditorium (Humanities Building, Room 133)
- 晩餐会：午後 6 時半～8 時半 Nob Hill Room, Seven Hills Conference Center, SFSU Campus
- 早期割引（10 月 18 日締切）：一般 \$25、学生\$10
- Late/On-site registration：一般\$35、学生\$15
- 晩餐会：\$50



どうぞ皆様お誘い合わせの上お越し下さい！ご参加の皆様ミニ羊羹も贈呈します。

<http://japanese.sfsu.edu/events> からプログラムと登録用紙をダウンロードのうえ、ふるってお申し込みください。お問い合わせは mmckeon@sfsu.edu まで。

(文責：「お茶三昧」会議議長・オーガナイザー マッキオンみどり)

日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) のお知らせ

習得した日本語能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度である『日本語能力試験』が、今年度もサンフランシスコ州立大学で12月1日(日)に実施されます。試験会場は、昨年に引き続き今年も全米13会場ですが、サンフランシスコはロサンゼルスに次ぐ2番目の規模で、受験者定員が600名です。このように大規模になりますと、NCJTA会員の先生で労働許可をお持ちの方には今年度も試験監督をお願いしなければなりません。何卒よろしくお願い申し上げます。

ご存知かと思いますが、日本語能力試験は、2010年から新試験形式を採用し、従来の4レベルから5レベル、N1 (Advanced)、N2・N3 (Intermediate)、N4・N5 (Beginner) となっています。これは従来の3級と2級の難易度に大きな隔たりがあるという批判に対応したもので、従来の2級をN2とN3に分割することで、2級に合格することが隘路とならないようにする、またコミュニケーションをよりいっそう重視した試験にするという意図があります。

試験科目は、これまで同様「言語知識(文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」の3セクションに大別できますが、最も難易度の高いN1と、その次に難易度の高いN2では「言語知識」と「読解」が一つの試験科目として1セクション、つまり、全体で2セクションになるというような変更点もありますので、ご注意ください。ちなみに、受験願書の受付期間は8月26日から9月27日となっていました。(文責：サンフランシスコ州立大学 南雅彦)

領事館インフォメーションセンターから

第40回日本語弁論大会の開催について

在サンフランシスコ日本国総領事館及び北加日米会は、第40回日本語弁論大会を下記の通り開催致します。本弁論大会に関する詳細については、総領事館のホームページにも掲載されておりますので、ぜひご覧下さい。

- 日時：2013年11月3日(日)
中高生の部：9時30分～、大学生・成人の部：13時30分～(予定)
- 会場：JCCNC (The Japanese Cultural and Community Center for Northern California)
1840 Sutter Street, San Francisco, CA 94115

第28期JETプログラムについて

第28期JETプログラムの応募に関する情報が、10月中旬よりオンラインにて入手可能になる予定です。応募に関する情報等は、在米日本国大使館ホームページ (<http://www.us.emb-japan.go.jp/JET/>) をご参照下さい。なお、当館のホームページにもJETプログラム募集広報やJETプログラムに関する詳細情報が掲載されておりますので、ご参照下さい。

(<http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/jet/index.htm>)。本件に関するお問い合わせは、JETコーディネーター (jet@sr.mofa.go.jp) までご連絡下さい。

『言葉の窓』



教え方、イロイロ

小山信子
カリフォルニア大学デービス校

大学院卒業後、縁あって台湾の大学に就職し5年間台湾で日本語教育に携わりました。それがプロとしての出発点です。まずいきなりの洗礼は街で出会うお年寄りの方々の流暢な日本語でした。「あなたは先生と一緒に台湾に来たの？」という質問の意味が、実は「あなたは旦那さんと一緒に台湾に来たの？」だと気づくまでに随分と時間がかかりました。台湾で〈国語 (guoyu) と呼ばれている中国語では、「夫」のことを「先生 (xiansheng)」と呼ぶのが一般的なのですが、私が出会ったお年寄りの方々はこの xiansheng を「せんせい」と日本語読みしていたのです。



こんなこともありました。大学での学生との会話で、「私、頭コンクリ」という言葉を聞きました。これは少し想像すれば意味が分かりますが、「私の頭はコンクリートのよう固いんです」という表現の省略版です。但しこれは頑固という意味にも鈍いという意味にもどちらにも取れそうです。さすがに「う～ん、なるほど」と唸ってしまいました。

カタカナの「ソ」と「ン」が逆になっているテレビドラマも観ました。〈ガンコラーメン〉が〈ガソコラーメン〉になっているお店もありました。日本語学習者が多いことを考えると、「頼む。誰か直してくれないかな」とも思いましたが、それは英語が氾濫する日本でも言えることなのかもしれません。こうなってくると何が正しくて何が間違っているのかが怪しくすらなってきます。

少し学術的な話もしましょう。中国語母語話者の日本語には「～の」の誤用がよく見られるのですが、中国語の特性を考えれば容易に理解できる種類の誤用です。例えば中国語で「私の本」は「我的書」となり、「あなたが買ったチケット」は「你買的票」となります。〈的〉が所有格にも関係詞節にも使われているのです。「なるほどなあ」と学生の日本語作文を添削しながらよく思ったものでした。この種の誤用は中国語話者の中間言語によるものなのでしょう。

所変わって東京にキャンパスを置くアメリカの大学。上級日本語クラスに上海出身の Y さんという学生がいました。この Y さんも「～の」の誤用が目立ちます。「う～ん、どうにか直せないものかな」と担当教師としては考えどころです。そこである日 Y さんにこう言ってみました。

小山「とりあえず、3回に1回くらいは『～の』って言いたくなるのを止めてみたら？」

Y さん「じゃあ、努力してみます」とこでちょっと苦笑い。

それからしばらくして、Y さんが報告にやってきました。

Y さん「先生、『～の』って言うの減らすようにしたら、間違いが減ったみたいです」

小山「良かったね」

この時はお互いになぜかにつこりと笑顔になりました。

さて一体私は何が言いたいのでしょうか。「随分、ゆるい感じで日本語を教えているんですね」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、ゆるいどころか「鬼のように怖い」と言われてきました。学生には常日頃から「勉強し過ぎて死んだ人なんて聞いたことがない。血尿出るまで、胃に穴があくまで、鼻血が出るまで、倒れるまで勉強してみなさい！そこまでやっても出来ないなら、私も納得します」とわめき散らしていました。後になって学生の一人に

「血尿って辞書で調べました」と真顔で言われて、大笑いをしてしまったこともあります。
「血尿って分かっただけでもいいよ」と褒めた記憶がありますが定かではありません。

言語学には **prescriptive grammar** という概念があります。規範文法と言えいいのでしょうか。そして日本語を教える＝規範文法を押し付ける、という考えを持つ日本語教師も実際にはいます。私にとって最もショッキングだった出来事は、台湾で出会った日本語教師の一人が学生の話の腰を折りながらひたすらリキャストを繰り返し平然としている様子を見た時でした。「本当にそんなやり方で直るの？」と尋ねると、「そうやって（日本語教師養成講座で）教わってきたから」という答えでした。

間違いを直すのも我々の仕事でしょう。ですが、「これが正しい」というやり方は一つではありません。一つのやり方にこだわらず、適材適所、臨機応変、それが出来て初めてプロなのではないかと思うのです。



役に立つ教材・研究文献紹介

Berkeley Language Center (BLC) のビデオクリップについて

Since 2009 the Berkeley Language Center has been engaged in a project to facilitate the use of film clips cut from feature and documentary films in the teaching and learning of foreign languages. At this time we have created more than 14,000 clips from 415 films in 24 languages (more than 1800 clips in Japanese alone).

Each clip contains a brief description of the contents, an alphabetized list of the dictionary form of vocabulary used in the clip (kanji/hiragana or katakana), subtitle variants (if available on the DVD), and the year portrayed in the clip. The clip also is tagged for cultural, discursive, and linguistic content.

Instructors logon to the application and search for clips that are of interest to them. They might search on cultural tags ("wedding", "border", "transportation"), discursive tags ("apology", "request", "permission", "reproach"), or linguistic tags ("idiom", "dialect", "metaphor", "poetry") to create a list of clips that have been marked for those tags. After finding clips that they want to use in class or as a homework assignment, they may choose to add annotations to the tags. After choosing from a variety of options on what the students will see (for example, information about the film, a separate audio track that has been slowed by 50% to aid in comprehension), they submit their request to the server and within an hour they receive a link to the clip. This link is put into the schools learning management system (Moodle, BlackBoard, etc.). The clips are available for a two-week period.

Access to the system is free, but must be done on an institution-to-institution basis. In order to maintain our claim to fair use, Institutions agree to have someone on their campus or at their high school act as the campus administrator (CA). The CA indicates which films in the BLC collection are owned by their institution. Then, once that is done, instructors at that institution are invited to set up accounts on the LFLFC, and they would have access to the clips from those films which their institution owns. So, for example, if they own Tokyo Story but they don't own Still Walking, then they would have access to the clips from the former but not the latter. Access to the system is controlled by the local CA, who decides which faculty are given access to the LFLFC.

The LFLFC clips are high quality video (higher than what is available on YouTube and without advertising). The vocabulary list and slowed audio aid student comprehension without resorting to subtitles, although the latter are also an option for most films. Moreover, the ease of annotation makes the creation of homework assignments straightforward.

Anyone interested in learning more about the LFLFC is welcome to contact Mark Kaiser at the Berkeley Language Center (mkaiser@berkeley.edu).

みんなの教材サイト

国際交流基金日本語国際センター

日本語教師を支援してくれているサイトです。写真なども沢山ダウンロードできます。
<http://minnanokyozei.jp/kyozai/home/ja/render.do>

日本語学・日本語教育の研究文献

『日本語教育再考：規範文法と記述文法の接点から見えるもの』

著者：南 雅彦教授 サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所

文献：国際交流基金「日本語教育通信＞日本語・日本語教育学を研究する」コーナー

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/research/index.html>

【概要】 外国語、たとえば日本語の授業では、誤用を可能な限り排除し、文法的に正確な表現の産出訓練を重視する傾向があります。言い換えれば、教室で文法を教える際に、教師は『規範文法』に囚われがちです。しかし、母語話者の幼児と同様、成人外国語（日本語）学習者も頭の中で文法規則の仮説・検証を行なっています。もちろん、外国語学習の場合、教室で文法規則を体系的に説明されることが多いので、母語話者の子どもとは置かれた状況は異なります。しかし、両者に共通するのは、誤用の産出が「記憶負担を軽減し、単純な文法規則を整える方向に、人は考えようとする」つまり、類推の結果だとする認知的解釈なのです。日本語を母語とする幼児は、たとえば「シロイのお花」と言うし、成人日本語学習者も「いいの車」と言うことがあります。ただ、母語話者の子どもと異なるのは、日本語学習者の場合、特定の文法事項が誤用のまま習得が進まず、過剰一般化・ルール単純化がいつまでも残ってしまう可能性が高いことです。こうした視点から考えれば、日本語学習者の「好きの人物」「変の味」「マイルドの食べ物」等の表現は、誤用として教室では訂正されるのかもしれませんが。同様に、学習者が「いいくない」「変くない」と言えば、教室では「良くない」「変じゃない」と訂正されることでしょう。しかし、広告を見れば「きれいの私」という表現が見られますし、母語話者（特に若者）の中にも「いいくない」「変くない」と言う人がいます。さらに、「きれいいくない」という地域方言も現に存在します。本稿で日本語教師の皆さんに提言したいことは、若者言葉と非日本語母語話者（日本語学習者）の言語使用の共通性、地域方言等との関わりに注目した社会言語学的アプローチ、つまり観察的立場に立った『記述文法』の重要性の再認識です。

先生の紹介欄



先生の紹介欄

佐藤佳子先生

- お名前を教えてください。
佐藤佳子（けいこ）です。
- 教えている学校名、町を教えてください。
今学期はバイエリアの SFSU, USF, フットヒルカレッジ、桑港学園で教えています。
- 日本語教師はいつから？
日本語を教え始めたのは、日本にいたときからですから、もう 30 年になります。



➤ **ご趣味は？**

旅行が好きで昔はよく世界を旅行していましたが、今は、年老いた母に会うために日本に帰るのが精一杯で、あまり旅行らしい旅行ができません。庭で野菜を育て、その野菜を使って料理し、食べるのが現在の一番の楽しみです。ハイキングも好きです。老化は足からとか、少しでも長く健康でいられるようできるだけ歩きたいと思っているのですが…。

➤ **日本の出身地は？**

出身は神奈川県の川崎市です。

➤ **アメリカに来てから何年ですか。**

早いもので、アメリカに来てもうすぐ 25 年になります。

➤ **仕事について、何か一言お願いします。**

教えることが好きで今までただ夢中で仕事をしてきました。学生に楽しく日本語を学んでほしいとの気持ちで。でも、最近つくづく学生に教えられて、刺激されてここまで来れたんだなあと思っています。

マクダニエルかおり先生

➤ **お名前を教えてください。**

マクダニエルかおりです。時々旧姓の「秦（はた）」をミドルネームとして使います。そうすると、ひらがな、カタカナ、漢字が全部入った欲張りな名前になりますので。



➤ **教えている学校名、町を教えてください。**

ロスガトス市にあるロスガトス高校で教えています。

➤ **日本語教師はいつから？**

高校で教えるのは今年で 9 年目です。日本で日本語教授法の勉強をし、渡米してから個人的に日本語を教えたりした後、修士号と教員資格を取る傍らサンノゼの Silver Creek 高校で 4 年間教え、5 年前に現在の高校に移籍しました。

➤ **ご趣味は？**

ピアノ、ガーデニング、読書、ヨガなど色々ですが、最近一番楽しんでいるのは歌です。下の娘の通っている日本語補習校関連のコーラス団体に所属しており、保護者の皆さんと楽しく歌を歌っています。この夏はスタンフォードのコーラスにも参加しました。友人に誘われてあまり考えずに参加したのですが、フランス語曲ありラテン語曲ありでとても苦勞しました。でも最終的にはとても楽しかったです。

それから少年マンガが大好きです。現在、ブームになっている「進撃の巨人」にはまっており、生徒とよく「進撃」の話題で盛り上がっています。

➤ **日本の出身地は？**

水戸納豆で知られる茨城県の出身です。でも横浜育ちなので、納豆は嫌いです。実家は牛久市というところがありますが、最近では牛久大仏で知られているようです。エレベーターで大仏の体内を上って行って、大仏の目から外を展望できるそうです（私は見たことがありません）。

➤ **アメリカに来てから何年ですか。**

トシがばれてしまいそうですが、18 年になります。1995 年にサンノゼに来て以来、途中 2 年間ミズーリ州にいましたが、それ以外はずっとサンノゼに住んでいます。とても住みやすいところで、気に入っています。

編集後記



北加日本語 教師会連絡先



➤ 仕事について、何か一言お願いします。

3人の自分の子供たちがバイリンガルに育って行く過程で、それぞれと二人三脚で、一緒にがんばって、一緒に悩んで、一緒に楽しんでできました。それを通じて学んだことを生かして、自分の生徒たちにも楽しみながら学んで欲しいと願っており、どうしたら楽しい授業ができるか常に考えています。一旦教壇に立ったらステージに上がったような気分です。結構バカなこともやったりします。教師という仕事は自分のやり方次第でいくらでも結果が変わるので、とてもやりがいがありますよね。一年の終わりにその年の授業を振り返ったとき「今年は去年よりも良い授業ができた」と、毎年言えるようでありたいと思います。

➤ 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、カリフォルニア州全体の日本語教師のための団体、California Association of Japanese Language Teachers (CAJLT)の会長をしています（会長と言うと偉そうですが、ただのボランティアですし、どなたでもなれるので、実は全然大したことはありません）。NCJTAに入会した理由は、ずばり「敵情視察」です...なんて言うのが構えられてしまうかもしれませんが、単に他の団体はどういうことをやっているのかなという興味から参加しました。例会には何度か参加させていただきましたが、皆さんとても頑張っている様子で、参加する度に、良い刺激を受けています。これからもどうぞ色々教えてください。

新会長が就任し、新役員2名も加わり NCJTA も新たにスタートを切りました。ニュースレターも、この39号から「役に立つ教材・研究文献紹介」という新しい欄を設けました。皆様、「耳寄りな情報」がございましたら、是非ニュースレターを通じて会員の方々と分かちあうべく、お知らせ頂けないでしょうか。また、ご意見、ご批判等がございましたら、どうぞ下記までご連絡ください。皆様からのご連絡をお待ち申し上げます。

須田: sudak@usfca.edu

清水: masakoshimizu@sbcglobal.net

NCJTA Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>
NCJTA. c/o Nobuko Takamatsu
City College of San Francisco
50 Phelan Avenue, A108
San Francisco, CA 94112
(415) 812-4777
E-mail: nobukot@sbcglobal.net

<役員>

会長: Nobuko Takamatsu 高松信子(同上)

副会長: Fumiko Grant グラント文子
City College of San Francisco
E-mail: fgrant@ccsf.edu

書記: Junko Ito 伊藤潤子
University of California, Davis
E-mail: jito@ucdavis.edu

会計: Seiko Kosaka 高坂聖子
City College of San Francisco
E-mail: seikogon@gmail.com

ニュースレター編集: Kyoko Suda 須田恭子
University of San Francisco
E-mail: sudak@usfca.edu

広報: Masako Shimizu O'Bryan 清水オブライアン真佐子
San Francisco State University
E-mail: masakoshimizu@sbcdglobal.net

フランク連絡員: Masahiko Minami 南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu

<各レベル代表>

小学校代表: Takeko Morioka 森岡妙子
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: taeko3568@aol.com

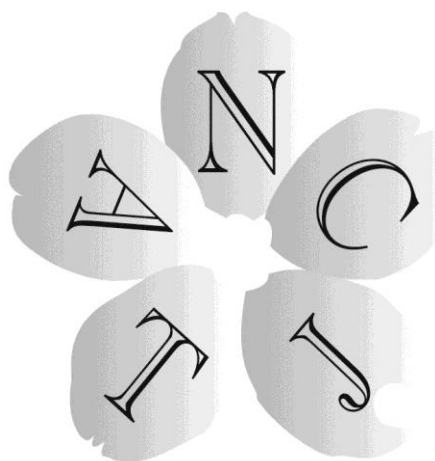
中学校代表: Rie Tanaka 田中理恵
Presidio Middle School
Email: rietanaka@gmail.com

高校代表: Tomokazu Morikawa 森川知計
George Washington High School
E-mail: tomokazu28@gmail.com

学園代表: Minakao Maki 真木 実奈子
San Mateo Nippon Gakuyen
E-mail: minakomaki@hotmail.com

コミュニティーカレッジ代表: Kimiyoshi Inomata 猪俣公克
City College of San Francisco
Email: kinomata@ccsf.edu

大学代表: Wakae Kambara 神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu



Northern California Japanese Teachers' Association

NCJTA

GROUP REGISTRATION FORM for FLANC CONFERENCE

Oct. 26 at Chabot College, Hayward, CA
See FLANC website for details, www.fla-nc.org

For Oct. 25 FLANC workshops at Chabot College, attendees must register individually and directly with FLANC, see website for details.

Please complete, make check payable to NCJTA and mail to:

Seiko Kosaka

% Ms. Nobuko Takamatsu

City College of San Francisco

50 Phelan Avenue A108, San Francisco, CA 94112

DEADLINE: OCTOBER 11, 2013

REGISTRATION FORM-PLEASE PRINT

Name: _____

Email address: _____

School Position: _____

School: _____

- Conference Group Fee (choose either Full Day or Half Day)
 - Full Day ----- \$25.00
 - Half Day (afternoon sessions only)----- \$15.00
- Buffet Lunch *Circle* YES or NO
 - If YES add----- \$20.00

Total Amount Paid: _____

Check # _____

Check in with your NCJTA representative on conference day at the registration table in order to receive your conference packet. Thank you.



会費納入/新会員登録用紙

前年度もしくは前々年度から未納入の会員の方々におかれましては、過去にさかのぼって未納入分はご請求いたしませんので、是非とも今年度分からお支払いいただけますよう、切にお願い申し上げます。2013年度分の会費は2013年1月1日から2013年12月31日まで有効となっております。

年会費 一般\$15、学生\$5

Check payable to: NCJTA

Mail to: Seiko Kosaka

% Ms. Nobuko Takamatsu

City College of San Francisco, 50 Phelan Avenue A108, San Francisco, CA 94112

(新規・継続) どちらかにマルをつけてください。

Name: _____

Affiliation: _____

School/office Address: _____

Home Address: _____

E-mail: Home: _____ Work: _____

Phone: Home: _____ Work: _____

領収書 (要・不要) どちらかにマルをつけてください。

.....き.....り.....と.....り.....線.....

住所変更/氏名変更等届出用紙

下記のうち該当する変更事項を○で囲み、必要な情報を書き入れてください。変更のない方は、提出の必要はありません。

Mail to: Seiko Kosaka

% Ms. Nobuko Takamatsu

City College of San Francisco, 50 Phelan Avenue A108, San Francisco, CA 94112

1. 氏名の変更 旧氏名 (漢字/カタカナ) :

(英語) :

新氏名 (漢字/カタカナ) :

(英語) :

2. 住所変更/勤務先変更 (新しい情報だけご記入ください。)

Name: _____

Affiliation: _____

School/office Address: _____

Home Address: _____

E-mail: Home: _____ Work: _____

Phone: Home: _____ Work: _____